

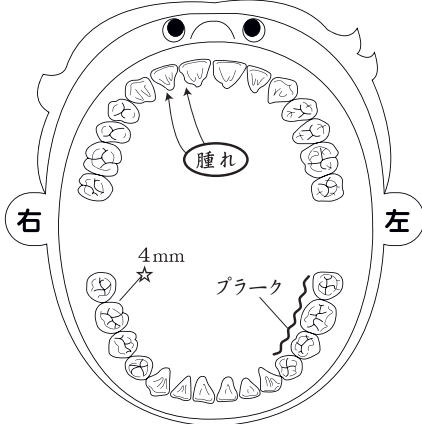
『お口の中をいつもきれいにしましょう』

歯科衛生実地指導

協会 太郎 様

2015年 4月 10日
15時00分 ~ 15時20分
病名 むし歯・歯肉炎 (歯周病) 第 1 回

口腔内の状態 ※1枚目2枚目ともブラークのついている所を赤くぬって下さい



評価 (検査結果)
お口の健康度 **45**

磨き残しのあったところ (~~~~~)
歯周病で問題のあるところ (☆)
(ポケットが深いところは数字表示)

■病状

歯と歯肉の間に磨き残しが多い。
また、歯と歯の間の
歯肉の腫れも所々見られる。

■改善するための目標 (指導計画)

毎回磨き残しのチェックをして
歯肉の炎症を減らしましょう。
お口の健康度が80点以上
になるように頑張りましょう。

【指導内容と家庭での留意点】

指導内容

①歯の磨き方

- 前歯 表 かかと磨き
裏 スクラッピング法
- 奥歯 表 バス法
裏 その他 (ブラシのつま先で)

②補助具の使い方 (歯間ブラシ、デンタルフロスなど)

衛生士からの一言

家庭での留意点

- ①規則正しい食生活 (寝る前の飲食は やめましょう)
- ②間食の取り方 ()
- ③喫煙と歯周病について ()
- ④歯磨きの回数1日 回 朝・昼・夜・寝る前 ()
- ⑤歯ぐしりや食いしばりの可能性について ()
- ⑥その他 ()

【保険医療機関名・所在地・担当医】

〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
全国歯科医院
院長 保険医 太郎
【担当歯科衛生士名】

『お口の中をいつもきれいにしましょう』
(歯科衛生実地指導用) — 控えをカルテに添付してください —
記載例

算定要件としての文書記載に必要な内容

【歯科衛生実地指導料】

- ①歯および歯肉など口腔状況の説明、②ブラークチャートを用いたブラークの付着状況の指摘および患者自身によるブラッシングを観察したうえでのブラーク除去方法の指導、③家庭において特に注意すべき療養指導、④ブラークの付着状況、⑤指導の開始および終了時刻 (15分以上)、⑥保険医療機関名、⑦主治の歯科医師の氏名、⑧指導を行った歯科衛生士の氏名

算定要件をご確認のうえ実態に合わせてご利用下さい

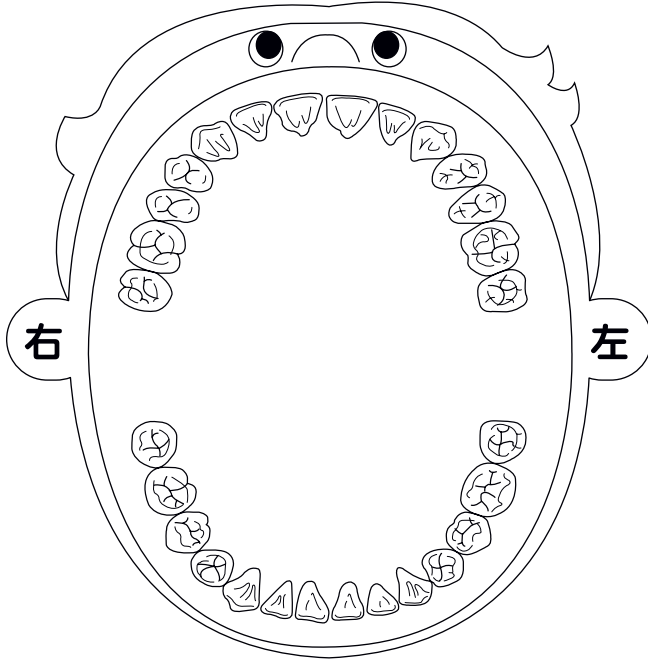
[お口の中をいつもきれいにしましょう]

歯科衛生実地指導

様

年 月 日
時 分 ~ 時 分
病名 むし歯・歯肉炎・歯周病 第 回

口腔内の状態 ※1枚目2枚目ともプラークのついている所を赤くぬって下さい



評価 (検査結果)
お口の健康度

磨き残しのあったところ (~~~~~)
歯周病で問題のあるところ (☆)
(ポケットが深いところは数字表示)

■病状

■改善するための目標 (指導計画)

[指導内容と家庭での留意点]

指導内容

- ①歯の磨き方
- | | | |
|----|---|-----------------------------------|
| 前歯 | 表 | <input type="checkbox"/> かかと磨き |
| | 裏 | <input type="checkbox"/> スクラッピング法 |
| 奥歯 | 表 | <input type="checkbox"/> バス法 |
| | 裏 | <input type="checkbox"/> その他 () |

②補助具の使い方 (歯間ブラシ、デンタルフロスなど)

衛生士からの一言

家庭での留意点

- ①規則正しい食生活 ()
- ②間食の取り方 ()
- ③喫煙と歯周病について ()
- ④歯磨きの回数1日 回 朝・昼・夜・寝る前 ()
- ⑤歯ぎしりや食いしばりの可能性について ()
- ⑥その他 ()

[保険医療機関名・所在地・担当医]

[担当歯科衛生士名]

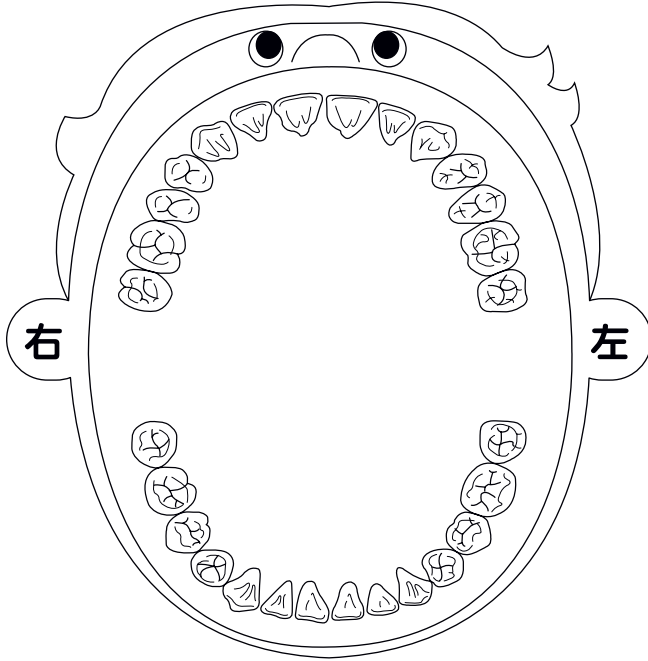
[お口の中をいつもきれいにしましょう]

歯科衛生実地指導

様

年 月 日
時 分 ~ 時 分
病名 むし歯・歯肉炎・歯周病 第 回

口腔内の状態 ※1枚目2枚目ともプラークのついている所を赤くぬって下さい



評価 (検査結果)
お口の健康度

磨き残しのあったところ (~~~~~)
歯周病で問題のあるところ (☆)
(ポケットが深いところは数字表示)

■病状

■改善するための目標 (指導計画)

[指導内容と家庭での留意点]

指導内容

- ①歯の磨き方
- | | | |
|----|---|-----------------------------------|
| 前歯 | 表 | <input type="checkbox"/> かかと磨き |
| | 裏 | <input type="checkbox"/> スクラッピング法 |
| 奥歯 | 表 | <input type="checkbox"/> バス法 |
| | 裏 | <input type="checkbox"/> その他 () |

②補助具の使い方 (歯間ブラシ、デンタルフロスなど)

衛生士からの一言

家庭での留意点

- ①規則正しい食生活 ()
- ②間食の取り方 ()
- ③喫煙と歯周病について ()
- ④歯磨きの回数1日 回 朝・昼・夜・寝前 ()
- ⑤歯ぎしりや食いしばりの可能性について ()
- ⑥その他 ()

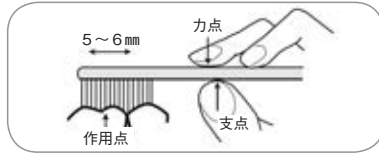
[保険医療機関名・所在地・担当医]

[担当歯科衛生士名]

正しいブラッシングを 身につけましょう

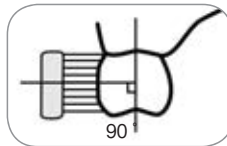


1. 毎日の習慣として身につけることが大切です。そして、1回10分以上時間を掛け、就寝前には特に念入りに磨くことが大事です。また、歯と歯肉の境目や歯と歯の間は磨きにくく、歯周病にかかりやすいので丁寧に磨きましょう。

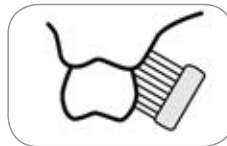


2. ブラッシングの方法 (1) スクラッシング法

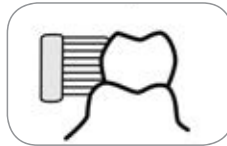
- ① 歯ブラシの毛先を歯面に直角にあてる。
- ② 前後に小さく振動させながら歯面を磨く。
- ③ 奥歯のかみ合わせの面は、かき出すようにして磨く。
- ④ 歯ぐきはできるだけこすらないようにする。



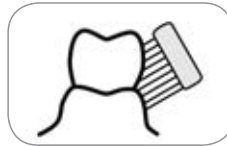
上の歯の外側



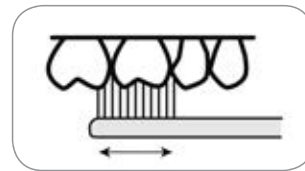
上の歯の内側



下の歯外側

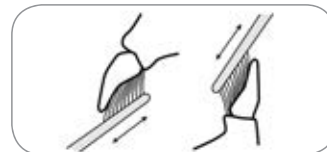
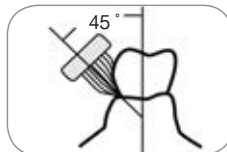


下の歯内側



かみ合わせ

(2) バス法



上の前歯 下の前歯

歯ブラシは鉛筆をにぎる要領でもち、ブラシの先を歯面に45度にあてて、2〜3歯ずつ左右にこまかく往復運動をさせて汚れを掻き出します。

3. (1) (2) 以外にもいろいろなブラッシングの方法がありますが、その人によって歯ならびと歯肉の状態が異なるので、ブラッシングの方法も異なります。大事なことは、毛の弾力を利用して毛先で掻き出すように磨くことです。自分にあったブラッシングの方法を歯科医院で習い、それを実行することが大切です。
4. 磨き残しがないようにするには、磨く歯の順序を決めて、1本1本1面1面意識しながら丁寧に時間をかけて磨くことが大切です。
5. 歯と歯が接している面などは、プラークが付着しやすく除去しにくい場所です。歯ブラシだけではどうしても残ってしまいます。そこで、補助的に歯間ブラシやデンタルフロスを使用することも大切です。
6. 鏡を見ながらブラッシングをすると、毛先の届き具合が確認できるので、より効果的なブラッシングが出来ます。

ブラッシング到達度 チェック

- 1 歯ブラシの持ち方はペングリップ状ですか
- 2 歯ブラシの動きはリズムカルですか
- 3 歯ブラシ圧は常に均一ですか
- 4 腕の脇はいつも締まっていますか
- 5 歯ぐきの健康・不健康は自分で判断できますか